



## 第45回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会

看護科長 釜 英介

11月8日(木)、9日(金)の2日間、第45回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会が、徳川家康が築城した浜松城を眺めるホテルコンコルド浜松で開催され、当センターからは大島院長と私が参加いたしました。

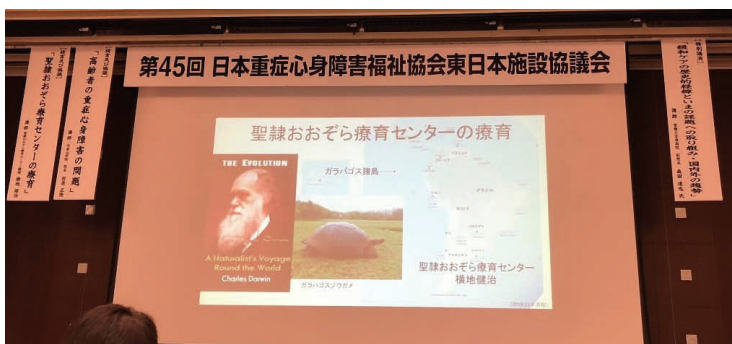
本協議会は、東日本地域の重症心身障害児(者)施設で構成されるもので、3つの地域ブロック(北海道・東北、関東、中部)に所属する施設が毎年交代で開催を担当しています。今年では中部ブロックの3施設(つばさ静岡、伊豆医療福祉センター、聖隷おおぞら療育センター)が主催し、65施設から約180名の参加がありました。

初日は、開会式の後、聖隷三方原病院副院長：森田達也氏による「緩和ケアの歴史的経緯と今の課題への取り組み：国内外の趨勢」の特別講演がありました。重症心身障害児(者)の分野でも緩和ケアへの対応が必要であり、家族への精神的ケアや意思決定(ACP)などを取り入れる必然性を実感いたしました。

続いて大倉山学院院长：出店正隆氏による「高齢者の重症心身障害の問題」、聖隷おおぞら療育センター顧問：横地健治氏による「聖隷おおぞら療育センターの療育」の2題の提言と協議がありました。出店氏はダウン症で入所している利用者の例を挙げ、事故防止のための取り組みと医療者の責任を指摘していました。横地氏は横地分類の有用性と重症心身障害児(者)にとっての良い活動を、自施設での活動を紹介し提言につなげていました。

2日目は、聖隷おおぞら療育センター顧問：横地健治氏による「聖隷おおぞら療育センターから見た現在の重症心身障害福祉サービス」、長岡療育園園長：小西徹氏による「長岡療育園における在宅重症児者支援」の2題の提言と協議がありました。横地氏は入所者に対する適正な方策を静岡県と愛知県を例に挙げ説明していました。在宅支援を行っている要医療的ケア児の増大に対応するために、施設側の取り組みを明確にする必要性を感じました。小西氏は重症心身障害児(者)の受け入れを進めるために近隣の大学病院のNICUに自施設の看護師の交流研修を行い、成果を上げていることを説明していました。

2日間を通して、どの講演にも関連していたのは、利用者の高齢化・重症化による新たな問題(在宅支援、緩和ケア等)に直面していることで、柔軟で多様性のある支援を展開することが必要ということでありました。当センターにおいても同様であり、これらのテーマで話し合われたことを在宅支援や緩和ケアに活かしていきたいと実感しました。このような有意義な会議に参加できたことを感謝いたします。



次年度の開催は、東京ブロックで東大和療育センターが主担当となります。同じ東京ブロックとして協力していくことを柳瀬院長と約束しました。

## 秋の企画

指導科 松井 かやの

11月21日(水)、あじさい館にて指導科行事「秋の企画」を行いました。今年は、絵本「ぐりとぐら」の世界をイメージして会場を飾りつけました。

会場に入るとまず見えるのが、森の中の「ぐりとぐらカフェ」で、森の動物に仮装した職員が利用者をおいしい焼き芋と焼きりんごでもてなしました。グランドの釜戸で、じっくりと焼いたサツマイモとりんごは、素材の味だけで十分に甘く、利用者に大好評でした。そして、バターのいい香りにつられて先に進むと、かわいい動物がホットケーキを焼いていました。フライパンの上でホットケーキがくるっと一回転すると、会場からは「おお～」と歓声上がり、大盛り上がりでした。さらに奥に進むと、絵本「ぐりとぐら」にも登場するエッグカーが現れました。実はこのエッグカーはタイムマシンで、ぐりとぐらのナレーションのもと、センター50年の歴史を映像で振り返る「ぐりとぐらと巡るセンター50周年」の旅を楽しむことができました。開設当初からいる利用者は懐かしそうに映像を見ていました。最後に、新センターの完成イメージ図も流れ、センターの「未来へ」と気持ちが高まりました。



## 半日バスハイク

1-B病棟 鹿志村 真紀



1-B病棟では、11月8日(木)に半日バスハイクで星乃珈琲へ出掛けました。星乃珈琲はお洒落な空間でゆっくりと喫茶が楽しめるので、当病棟では大人気の行先です。行きのバスの中から「何を食べようか?!」、「この時期の季節のデザートは何か?!」など話題はつきませんでした。星乃珈琲に到着すると、昼食を食べてきたにもかかわらず軽食のメニューをどうしても見てしまう人、美味しそうな写真付きのメニューを見ただけで大きく口を開けて食べる気満々な人、担当してくれたウエイターの方に心をとくめかせて照れてしまう人など様々な姿が見られました。ふわふわなパンケーキや季節の栗のスフレ、色とりどりのフルーツが入った紅茶や珈琲などを美味しくいただき、みんな満足した表情が見られていました。

## お楽しみ会

5-A病棟 上野 聡子

今回、11月7日(水)に開催した5-A病棟のお楽しみ会は、センターでもお馴染みのマリンバ奏者である宮野下シリウさんを迎え、マリンバコンサートを行いました。コンサートが始まる前から楽しみにしていた利用者は、早めにディルムに集まり、今か今かとシリウさんが現れるのを待っていました。

演奏曲は、秋にちなんだ『小さい秋みつけた』や『里の秋』、『もみじ』に加え、テンポの速い『コーヒールンバ』や『熊蜂の飛行』などでした。ダイナミックかつやさしい演奏に利用者の皆さんは声をだしたり、頭を左右に振り手足を動かしたりと演奏にノリノリで楽しんでいました。他病棟から参加した利用者も多く、大勢で楽しむことができたコンサートでした。







## 秋の総合防災訓練

事務室 山口 裕輔

10月23日(火)に府中消防署栄町出張所署員の指導の下、秋の総合防災訓練を実施しました。訓練の設定は、昼間帯に多摩直下、震度6弱の大規模地震が発生、それに伴う火災災害を想定したものでした。

### ●地震対応訓練

今年度は地震発生により、各部署から様々な被災状況が災害対策本部に報告され、その内容からどのように医療継続を図るか検討するものでした。被災状況の整理には、ホワイトボード及び付箋を使用し、緊急性、重要度の尺度から個々の被災状況に対応しました。

### ●避難、消火訓練

地震対応訓練に続き、5-B病棟での火災を想定した避難・消火訓練を行いました。出火場所を病室に設定し、避難活動、消火活動をリーダーが職員それぞれに的確に指示し、避難、消火活動に臨みました。府中消防署の方からは、非常にレベルの高い訓練と評価をいただきました。

### ●消防署による救助実演

救助実演では、消防署員による火災で逃げ遅れた場合の救助方法の説明の後、目の前で実演していただきました。

### ●防災教育

防災教育では、エアーストレッチャーを使用した搬送法、消火器・消火栓による放水、起震車、濃煙などを実際に体験してもらうことで、防災意識をより一層高めてもらいました。

その後、災害対策本部員が集まり、今回の訓練での改善点を話合いました。当日挙げた意見は、今後の災害対応に、活かしていきたいと思えます。

災害の規模が大きくなればなるほど、「自助(自分の身は自分で守る)」・「共助(力を合わせて助け合い)」・「公助(公的機関が援助する)」が大切になってきます。職員一人ひとりの防災意識とセンターとしての防災組織の体制整備を今後とも高めていくことが重要です。今後とも多くの職員が参加し、防災意識をより高められる防災訓練にしたいと思います。

### ●地震対応訓練



### ●避難、消火訓練



### ●救助実演



### ●防災教育



## 新人看護職員臨床研修修了式

11月2日(金)平成30年度看護職員臨床研修修了式が行われました。  
6か月間の研修を終えた新人看護師に「10年後の自分」について質問してみました！

### 「10年後の自分」

今はわからないことばかりで慣れるのに精一杯の日々ですが、10年後は、在宅で生活する重症心身障害児者の方の訪問看護や精神疾患を持つこどもの看護など、より幅広い意味での障害や生きづらさを持つ方の支援に関われる看護師になりたいと考えています。利用者さんと接する中で、その方の意思を大切にしたい看護とは何か悩みながら、多くのことを学ばせて頂いています。利用者さんと過ごす一日一日を大切にしながら、看護師として成長していきたいです。



### 「10年後の自分」

10年後、私は、看護師としてばりばり働き活躍できるようになっていたと思います。そして、利用者さんに寄り添った看護が自然とできるようになりたいです。

そのために、私は、重症心身障害看護の専門的な知識と技術をしっかり学び、実践力を身につけていきたいと思っています。

是非10年後の私を見てください。



研修の様子



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧ください\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>